

# 令和4年度 第3回 津山市スマートシティ推進協議会議事概要

日 時：令和5年2月2日（木）

13：30～14：40

場 所：津山市役所 第1委員会室

## 1 開会

栗村副市長挨拶

心豊かな暮らしウェルビーイングの向上を目指し、本市の目指すべき都市像を示すスマートシティ構想の策定のため、幅広い視点から忌憚のないご意見や、ご助言をいただきたい

## 2 議題

### (1) 津山市スマートシティ構想（案）について

事務局から説明

スマートシティ構想につきましては前回第2回の推進協議会で、構想の目指す姿の部分についてご審議をいただいております。そこでいただきましたご意見のほか、その後実施をいたしました住民等の意見募集やワークショップの実績を踏まえまして、構想全体を整えましたものを、本日お示しをしているところでございます。

《質問》津山市の抱える課題のページに、消費199億円流入、投資120億円流出、移出入579億円流出とあるが、この意味を教えてください。

《回答》市町村単位で生産、分配、支出の三段階で地域のお金の流れを見える化する地域経済循環図で、地域内の住民・企業が支出した金額と、地域内で支出された金額を比べた数字になります。民間消費につきましては、域外から199億円流入しており、民間投資につきましては120億円流出、移出入の差額で579億円の流出超過となっているということです。

《質問》地域内というのは単純に津山市内ということでしょうか。

《回答》津山市の区域内の消費行動に係る消費、投資、移出入の金額をお示しております。

《質問》人材育成に向けた拠点整備のページで、デジタル人材とICT人材と表記が使い分けられてるんですけど、違いについて教えてください。

《回答》明確な使い分けをしているわけではございません。ご指摘の点を踏まえまして、完成ま

では用語の整理をさせていただきます。

《質問》人材育成の拠点にeスポーツ施設を選定した理由を教えてください。

《回答》現在、COTOYADOや老人福祉センターで高齢者のeスポーツの体験が実施されており、広くこういったことができるフィールドを確保すれば高齢者のフレイル予防につながり、また、eスポーツに関心の高い世代もいますので、拠点を整備することで、デジタル人材なり、それを健康に活かしていくというプラットフォームができていくのではないかと、この拠点の中にその機能を付加をしていったらどうかという流れで、ここに入ってきた経過でございます。

《質問》高速大容量の通信能力がないとこのデータ連携もできませんし、津山商工会議所デジタルシフト推進委員会においても、5Gのエリアが狭いという具体的な話が出ました。市民からのご意見の中にも、高速大容量のネットワークが必要ということもありましたので、通信能力のアップであるとか、5Gであるとか、ここは少し彩りを加えてもらった方がよいのではないかと。

《回答》データ連携基盤の全体構成の中で通信環境、通信基盤をどうするのかというのも、内容としては入ってくるかと思えます。現状において、そこの記載がないことについては、ご指摘の点を踏まえまして、適切にその内容について検討させていただきたいと思えます。

《質問》津山市内で完結できないもの、例えば災害、観光といったものは広域で結ばないと、効率が悪いと思えます。各自治体で取り組んでいると思うが、そこの連携というか、今後とかいうようなものをお聞かせ願えたらと思えます。

《回答》定住自立圏、岡山連携中枢都市圏といった広域での枠組みの中でも、デジタルの取組を各市町で整備をしていこうという考え方がそれぞれございます。連携できる項目については、連携事業ということで、適宜、加えさせていただいておりますし、今回、津山市が整備をしていこうというこの連携基盤につきましても、汎用性の高いシステムでありまして、効果を上げていく上でも広域で例えば定住自立圏自治体に呼びかけをしながら、相乗りができるものについては利用していただけるようなものになっています。今後、まずはデータ連携基盤を津山市が整備して、その後、利活用を周りの町にも、呼びかけをしていきたいと、こういうふうに考えております。

《意見》育成しようとしてるICT人材とは、スマートシティ構想を支える人材ということなのか、それに付随する全体的なICTを活用できる人材ということなのか、具体的にどういいう人材を育成しようとしてるのかって言うのを、はっきりさせておいた上で、人材の育成に向けた拠点整備の話があってもいいんじゃないかと思う。

《質問》eスポーツ施設ということでいくと、デジタル人材の中には、eスポーツができる人材とかですね、もちろん動画編集ができる人材というのはICTのところにも直結して想像しやすいんですけども、そういった人材がこのスマートシティーを支えていく上で、どういう分野で活用できるのか、地域企業、人材派遣会社という言葉はありますけどもおそらく教育現場でも必要でしょうし、特に市の窓口業務等を効率化する上で、そういったICT、スマートシティのことに詳しい人材も必要でしょうし、そうなるとそういった人材を研修するためのリメディアル教育のあり方であるとか、そういったことも出てくるのかなど。また、持続可能なスマートシティを推進していく上では、やはり小中学校からそういう機会をですね、技術を身につけた人材を育成してくってということもあるんじゃないかと思うんですが、その辺りもう少し具体的な話が見えるといいのかなと思うんですが、これはひょっとするともうちょっと後に考える話ですというふうなことなのかもしれないんですけどもその辺りを、教えていただければということがあります。

《回答》ICT・デジタル人材がどういう人材なのかということにつきましてですが、ICT人材と一言に言いましても、どういうスキルがある方に、どういう場面でご活躍をいただくかというのが幅広く議論があるところがございます。そういう中で、事細かにそういう人材育成プログラムができていくかということ、今後そういったものを作っていくという状況でございます。10ページにつきましては、地場の企業さんのヒアリング等を行う中でどういう人材が不足しているかといったときに、生産性向上に資するデジタルを導入するための人材が現場でとりあえず欲しい、こういう人材が不足しているという声を受けまして、そういった要望におこたえする人材を地域でも輩出ができるような仕組みが要るだろうということで設定をしております。

eスポーツの関係ですけれども、確かにeスポーツができる施設となりますと、eスポーツをされるプレイヤーとしての参加というのも当然ありますけれども、eスポーツの中にはですね、eスポーツされながらプログラミングも同時にやられてる方もいらっしゃる。そういった人材もとらまえて、eスポーツをするだけではなくて、eスポーツに関連するプログラミングとか、そういったことも学習ができるような、機関に

なると望ましい、こういうふうを考えておるところでございます。

《質問》18ページの共通IDについて、前回、マイナンバーの話もちょっと質問させていただいたんですが、例えばマイナポータルですと毎回ログインする上で、マイナンバーカードをかざして認証するという形をとっておりますけども、この共通IDというのは、津山市独自にまた別に設定して、そのポータルにログインする上においては、何かその認証の仕組みが必要かと思うんですけども。その辺り具体的な認証の仕組み等が、構想としても現段階であれば、教えていただきたい。

《回答》共通IDにつきましては、どういう方式が最も利便性が高くかつ安全に運用できるか検討している最中であります。ポータルサイトの情報も個人に特化した情報を見に行く場合もあれば、ホームページのような一般的にオープンになっている情報を見に行くケースもあります。その中で、毎回厳重な認証が必要かどうかというあたりになってきますと利便性との兼ね合いがありますので、そのところで協議をしているところです。

《意見》やはりログインする上での利便性というか、マイナポータルの場合、マイナンバーカードをかざすというのでセキュリティは厳重だと思うんですが逆に面倒くさいっていうのありまして、そういったところも含めて、どういうお考えなのかなと伺ったんですが、いろいろそういう利便性を考えて構想されているということでした。場合によっては、マイナンバーカードも利用するような仕組みがあると、一応国のものと共通するんで、その部分については使えるという可能性が高くなるんで。利便性が高くなるかなとも思います。

それから人材育成については、なるほどeスポーツを、いわゆる単純なスポーツとして楽しむ人材を育ててそれがスマートシティになるとちょっと直結しづらかったんですが。逆にそういったeスポーツを実践されてる方のICT関係の技術を生かした人材育成が副次的にできるということでした。いろんな企業さん、人材を求められてると思うんですけども、一つのこの教育を受けられる場として、津山ITハブというものを構想されてると思います。それと本学もあるのでそれを活用するという観点からいくとですね、大学の中に学部とか学科を新たに作るってのは非常にこれ難しい話なんですけど、今多くの大学で取り組みがあるのはいわゆる寄付講座という形で、関連する企業さんはですね、人材及び資金等を大学に提供して、一定期間、特定の人材、技能を備えた人材を育成するという講座を設けるということを今、多くの大学でもやっております。その場合はもちろん学生だけではなくて、市民も対象として、開かれた形での講座実施

になるので、例えば市役所の中で、地域行政に関わるような、そういうICTの技術を習得するというのであれば、将来例えばうちの学科ですと社会福祉学科の学生なんかは、町村に就職する場合がありますので、そういった学生及び現任の公務員の方が、講座を受けることで、技能を学ぶという場としても活用できるんじゃないかと思うので、そういった寄付講座というような形態での大学の利用というのも、あるのではないかというふうに思います。以上です。

《意見》関連してIT人材の件なんですけれども、私が聞いている話のところで少しお話をさしていただきます20ページですかね。そこに津山高専、人材連携とか、教育支援というのがあるんですけども。津山高専は工学系、或いは理学系ですので、その中で、AIを使えるとか、地元就職して企業の中でそういう人材となって活躍していくと、そういうようなストーリーがあれば非常にいいのかなとは思ってはいるんですけども、先ほど話があったような寄付講座とか、高専、大学院にも企業の方が入られて、専門性のある新しいことをできる人が学生に教育していく、そして企業へ学生が就職して、そこで活躍していく、企業の方も多分、そういう人材が不足していると聞いておりますので、そこが上手く回ればいける。それからSTEAM教育ですね、情報だけじゃなく、芸術とかを取り入れた感覚的な教育ですね、こういうものを重要な感じでやっていくと。一部はもうすでにeスポーツはやり始めてはいるんですが、まだまだこれからだと思っております。それから、eスポーツについても、これも市の方からお話を聞いてますが、お子さんから、年配者で参加して非常に楽しくやったというふうに聞いておりますので、デジタルに慣れるという意味でこういうeスポーツも非常に有効ではないのかなと思いました。

《意見》この構想全体に通してちょっと思うことがあるんですけども。12月の新聞ですね、デジタル田園都市国家構想ということで、岸田首相が出した地域活性化策でございますが、東京から地方に移住1万人を目指すということをやっております。また地方での起業を27年度に約1000件程度を目指す、さらに地方に若い世代を呼び込むためデータを活用した少子化対策に取り組む自治体数を300にするということも掲げられております。この報告書を見る限り、そういうような内容のことがちょっと薄いんじゃないかなという気がします。もちろん津山市として、基本計画でありますとか総合戦略の中ではそういうことを目標に掲げて、事業を進められていると思うんですけど、この構想案だけをとりまえてみると内容にそこが見えてこないということが全体的に

感じます。

《回答》政府が昨年末にいろいろ発出したデジタル田園都市国家構想の取り組みに関して、これに準じる形で市の方もまちひとしごと創生総合戦略の見直しを行うということになって参ります。人口減少、少子高齢化対策、こういったものをいかに、このデジタルの技術を使って対策を行っていくかというのは、そちらの方でしっかりと記述をして参りたいというふうに考えております。

《意見》デジタル人材育成に向けた拠点整備で、人に投資して、人材を育てるのはすごくいいことだとは思いますが、eスポーツ施設、なぜeスポーツとしたかはやはり理解できないかな。といいますのが、私は商工団体の事務局長をしておりますが、昨日も、商工会議所と美作地域の五つの商工会の意見交換がありました。その中で、やはり今一番厳しいことはもちろんいろいろ、コロナとか、それからウクライナの情勢とか、物価の高騰とかあるんですけど。やはり人材確保が厳しい状況と。ユニクロとかそれからイオンさんなんかは、賃金は、大幅にアップするというようなところもありますが、なかなか中小企業、小規模事業者、人の賃金を、人件費を上げるというのは、死活問題でございます。その中で、どうやったら人材確保できるのかということはかなり悩まれてると。課題が大きいということも聞いております。デジタル人材が育って、業務を効率的にこなすとか、新しい価値を作って地域産業の貢献をするような人材を今後育てていくべきではないかなと。eスポーツがそういう人材を育てる点なのかということにはちょっと率直に疑問に感じました。意見としては以上です。

《回答》eスポーツ施設につきましては確かに経済界に即戦力として導入できる人材の課題としての緊急性というのが非常に高いというのは、おっしゃる通りだと思います。ただeスポーツにつきましては、先ほどもございましたが子供たちや高齢者の方がそのデータ技術に慣れ親しむ、こういったツールとしても利活用ができます。eスポーツ産業もですね、これからますます成長分野になるということも見込まれることを踏まえれば、ちょっと今はピンとこないというふうなご感想をお持ちかもしれませんが、一つの可能性ではあるかというふうに考えておるところでございます。ページの占有面積から言いますと、確かにeスポーツの枠がこれだけ必要かという現状で必要な人材を育成できる施設、こういったことの機能がより注目されているというのはおっしゃる通りだというふうに認識をしております。

《意見》 e スポーツ施設の件に関しては各委員さんが言われるように、ここへ e スポーツ施設と書かない方がいいかもしれない。

少なくとも「等」がつくとか、プログラミングだったり動画編集なんてこと他の施設でもあるわけじゃないから、ちょっと違和感があるんだと思います。

## (2) 津山市スマートシティ構想の目指す姿（案）に対する意見等について

### 事務局から説明

意見募集につきましては、13名の方から34件のご意見をいただき、市の公式ホームページで公開をしております。

ワークショップにつきましては13名の市民の方にご参加をいただきまして、3グループに分かれましてグループごとに異なるペルソナ、人物像を設定をいたしまして、日常生活における困りごと、課題をそれぞれ話し合っ出て出し、洗い出しをしていただきまして、解決策を検討したものでございます。当日の様子、写真も含めて、こういった形の検討の板書といいますか、こういうところで書き込みながら、ワークショップを進めたということでございます。

それから、この中にですね、解決のアイデアを考え、こういったことを行いましたけれども、その際には、資料ではドラえもんというふうな表記をしていますけれども、この現在存在しない道具や仕組みを使うもの。また、津山市の特徴を生かすもの、既存の法律やルール of 仕組みを活用するもの、デジタル技術を活用するもの、こういう順を追って、まず全然ないところから、こういうものがあるといいなというものを発想していただく段階のものはドラえもんのレベルとして、以下実際に、実装具体化に向けて、段階によっていろんなアイデアを出し合ったと、いうふうなことを行っったところでございます。

それから、2-4につきましては、現在も研究進行中でございます慶應義塾大学で正式研究所の学生の皆様との共同研究でございまして、いろいろな社会課題地域課題を四つのチームに分けて、フィールドワークを行っまして。現在はチームが一つに統合して、最終的に共同研究の成果について取りまとめをいただいております。裏の方法が、最終的に検討において、津山市に必要な取り組みではないかということでご提案をいただこうかと言うふうな状況でございます。学生と企業の協働によるオープンイノベーションの創発について、今回は今年度の研究成果としてご提案をいただくというふうな見通しとなっております。報告については以上でございます。

《質問》費用対効果とかいう言葉が出てくるんですが、先ほどの構想の資料でも津山市の課題として財政構造の改革が必要である、ということがあります。今回このスマートシティ構想を推進していく上でやはり財源というものが大きく、特に基盤整備、ハードウェアの整備等についてはあると思うんですが、そういったその財政部分の話というのはこの資料の中には入ってこないんですか。

《回答》データ連携基盤の整備を含めまして、一定の財政支出が伴うということが前提にはなっております。この取り組みに関しましては、国のデジタル田園都市国家構想交付金といったものをしっかり活用いたしまして、導入についての、市費の負担を抑制しながらですね、先進的な取り組みを進めて参りたいと。

それからもう一つこのスマートシティの考え方で重要なのは、やはり持続可能なモデルとして運用していくことを考えるというのが至上命題でございます。このデータを民間相互でまた利便性を高めていくことによって、町全体の付加価値を高めたり、生活されている住民なり企業さん、地域の企業さんに利便性を感じていただくサービスを向上していくと。こういったものにつなげていくということから、将来的にこういった必要な経費について負担し合う枠組みというのを作っていかないといけないんだろうなというのは、今想定をしているところでございます。

《質問》グループワークをしたワークショップの写真を見てますと、アイデア名として子育てというキーワードが出てきます。こちらのスマートシティ構想の資料の中でも Well-being の一つとして教育、子育てというのがあるんですが、今回選定された7分野の中では福祉が外れてたんですけども、これを見ると市民の求めるものと今回選定されたものとで若干ずれもあるのかなという気もしないではないんですが、そのあたりはいかがでしょうか。

津山市さんも、デジタル母子手帳とかというそういったところでの、子育てに関連するDX化を進めておられるので、それも今回どこまで絡ませるのかなというのはちょっと今、疑問点として生まれましたので教えていただければと思います。

《回答》7分野の中に確かに子育てという項目で区切ってはございませんけれども、様々な分野に跨ってですね、この子育てへの支援ができるかなというふうに考えております。例えば市の窓口におきましては子育てのアプリを導入して、いろんな方の負担が軽減できて、育児に対しての相談も含めてできるような、そういったアプリなり、そういった行政の対応も並行して進めております。また、教育や健康寿命の取り組みの中でもですね、子供さんに関わる健康の維持ですとか、学習、教育、学力向上、それからいろんな心配

事にも対応するような対応ができていくといったところも想定しながらですね、全体として子育ての支援に繋がるようなことを考えてございます。

《質問》ありがとうございます。一応津山市の抱える問題として財源もあるんですやっぱり人口が増えるということが、今後の持続可能な社会に必要なだと思いますので、その観点からいうと子育てというキーワードが非常に重要で、津山市がそういった子育ての面で付加価値があるような市であるというような認識があればですね、外から人も入ってくる可能性も増えるんじゃないかなと思いますんで、この中に埋没するような形じゃなくて何らかの明示的な表記等もあってもいいのかなと。全体的なバランスの問題もあるかもしれませんが、ちょっとそういうふうに思いました。それから財源については国の交付金等ありましてそれが切れた後の問題として経費を持続可能的にどうするかという問題確かあると思うので、その辺りも考えていく必要があるだろうというふうに思います。以上です。

### (3) 今後の推進体制について

#### 事務局から説明

構想の中でも、この推進体制に少し触れさせていただきましたけれども、基本的には今の協議会の枠組みを維持しながら、分野ごと、施策事業ごとに部会、プロジェクトを立ち上げて、親の協議会が全体の方向性を決定していくという流れを想定しております。今後、コンソーシアムの方に参加をいただける企業、団体についての募集をいずれかの段階で図っていきながら、いろいろな取組を、中身を作って参りたいと考えております。いろんなデジタルを推進していく企業さんの取り組みとかをともに共創していくと、ともに作っていくというような枠組みを近々に整えて参りたい、このように考えております。

《意見》推進体制の協議会の枠組みをこの枠からふやす気がないと読み取れるんですけども。この推進協議会は先ほど説明がありましたけども、各分科会事業を事業部会の管理チェックを行う機関というような位置付けというふうに今説明を聞きました。となるとですね、この構想を発案するときには、確かに期間もタイトですからこういうコンパクトな組織でもいいんですけども、いざその実行する段になって管理やチェックを行うということになると、やはり再編をすべきではないかなというふうに思います。といいますのが、具体的に言いますと、分野の中に医療、健康データだとか、森林保全だとか、廃棄物の

減量だとか、商工団体は範囲が商業、工業なので、なかなか手に負えないという気がいたします。ですのでやはりここはもう少しメンバーというか、膨らますべきではないのかなあというように思っております。

それからこれは表記の問題ですけども、このコンソーシアムのところに、私はもう分科会が大事だな、実働が大事だになっていうのも当初から言わしていただいたんですけども、この事業別という表現をしておるんですが、でもこの事業別って具体的には産業観光であり、健康であり、五つの分野ですね、先ほど言いました五つの分野が出るんでしょうから、見る人が事業別って何の事業なのという話になるんじゃないかと思っておりますので、ここは分科会というように具体的に、重点分野を書いていた方がわかりやすいんじゃないかなというふうに思いました。

《回答》協議会の構成ですけれども、もちろん先ほどいただいたご意見も尊重させていただきながら、新組織を立ち上げといいますか、改組の時には、そういったご趣旨も踏まえて、改めて検討して参りたいと思います。

ただ、ちょっと役割分担のところですね。最終的にその協議会というのは、いろんな個々の施策の中身をですね、検討していく組織ではなくて、最終的に年に何度か開催をする中で、その期間までに事業化に至るようなものがこれだけあるということをご承認をいただくような、最終決定をいただくような機関でございます。

で、実質的にこの構想を進めていくのがコンソーシアムになります。コンソーシアムの構成が、実際にその事業の中身にですね、十分検討していく枠組みになって参ります。で、いろんな他分野の方がそういったコンソーシアムの中には加わっていただきまして、必要な利害調整なりですね、一定のコンソーシアムで運用していくルールというのにも必要になってくると思いますのでこちらも、このルールづくりについては協議会の方でこういうルールを進めますということをご承認いただいた上で、コンソーシアムの運用を行って参りたいというふうに考えております。部会、プロジェクトにつきましてはですね、分野という括り方ではなくて、あくまでこの個別の部会の事業をやりたい、それにつきましてはこの枠組みで、この事業者さんとこの事業者さんと、例えば市とでやります。或いは高等教育機関とでやります。こういう個別の事業について、策定、設置をする部会ですので、ちょっと分野全体を行うというふうな役割分担ではなくて、個別事業が実施をこれからやっていきましょう。国の交付金を取って事業やりましょうというふうな段階になった時に初めて設置をするものということをご想定してございます。

《意見》全体がもう本当に動き出さないとちょっとわかんないなっていうのがありますが、中核的な牽引組織というようなことが冒頭の方になっておるんですけども、責任もってお話ができるような、その範囲にとどめていただきたいので、そこは考慮していただければと思います。

《回答》推進協議会のあり方、メンバー構成含めて再度もう1回きっちり説明をさせていただきますと思います。

《意見》協議会の説明を聞きましたけど、内容聞く限りでは、市内の団体、市内の公共的団体、学校、それから企業さんというふうにとめました。もちろん地域で頑張っていくのは必要なんですけど、例えば、IT企業の大手企業と包括連携協定を結んで進めていくとか、個別のプロジェクトについても、最近ガバメントクラウドファンディングというように大手のECサイト運営している企業と一緒に1つの事業をするのに資金調達の手段として自治体がクラウドファンディングをやっているところもありますんで、何をやるにしても資源というものが必要なんで、どうやって資源を確保していくのかと、これはやっぱり内部だけで、市内だけの団体でやるのは厳しいので、やっぱり大手の企業さんと連携協定を結んでやっていくようなスキームも必要じゃないかなというふうに感じましたので、ご研究の方よろしくをお願いします。

《回答》引き続きそういった面も含めて研究させていただきます。

《意見》いろんな産官学連携なんですけどももとは市の視点での課題を出し、その視点の中で公募提案をされたやつを我々が協議してるということで形作っておるんですが、ここの総合計画にもありますように、かなりの広い分野にこれが共通する大きな問題です。要するに行政分野の中で、それぞれの担当分野の共通認識とか、連携とかいうものを同時に形作っていただいているのかなと思います。これは市長にお願いなんですけども、私もいろんなことで行政の幅広いところに携わったり、特に今計画とか、構想とかというのは一生懸命動いてる時期です。そういうふうにして縦割りにならないように、共通する部分は、せめて各部のトップ、誰に聞いても同じことがいえるような体制づくりっていうのはしていただきたいなというのを感じます。よろしくをお願いします。

《回答》市の中でも各部局長ベースできちっと会議を作ってやっております。この構想は全体のいろんな個別計画であったり戦略を元を踏まえて全部考えましょうということになりますんで、委員のご指摘のように、これを市役所内部で共通認識をもって各事業施策計画は作って参りたいと思いますのでよろしくをお願いします。

3 その他

4 閉会